



中間報告書を國島市長に提出する
六角委員長(左)と小峠副委員長(中)

高山市総合交流センターの整備については、「高山市総合交流センター検討委員会」(以下「検討委員会」)を設置し、施設の規模や機能、必要性等について検討を進めています。

検討委員会は、関係団体の代表者や学識経験者ら23人で構成され、4月から4回開催されてきました。

8月31日、これまで検討された内容や委員からの意見を取りまとめた中間報告書が國島市長に提出されました。

今後も継続して検討され、年内には最終報告書が提出される予定です。

中間報告の内容

交流施設(駐車場及び多目的広場含む)について

委員会としては、高山駅舎の整備計画(自由通路)、高山駅東口・西口の役割分担及び高山市の既存計画(上位計画)などを勘案し、高山市総合交流センターについては整備を進めるべきとの結論にまとまった。

但し、負の財産とならないように「誰がどのように使用するのか」「運営コストを含めた運営方法」「市内の既存施設との役割分担の明確化」などの検討を継続して審議するものとした。

健康増進施設について

今後の高齢化の進展などを考えると健康増進施設は必要である。

しかし、スイミングプールは多大な運営コストが必要になるとともに、民間事業者の経営と競合するため、委員会としては駅西地区への導入は不要との結論にまとまった。

なお、スイミングプールについては、今後、他のプール施設(市民プールやB & Gなど)の状況を鑑みながら、全市的な計画をもって検討すべきと考える。

また、スイミングプール以外の健康増進施設の導入機能などについては、委員会において、継続審議するものとした。

●交流施設に対する委員会での意見【抜粋】

- ・高山の中心部のこの施設に、人が集まり、交流が始まり、ふれあい活動が進めば、より生涯学習活動も活発になり、社会教育も推進される。
- ・多世代の交流、コミュニティの再構築などにおいて、交流施設は大変重要。積極的に行政がこのような施設を最小限に作り上げることについては、意見が一致するのではないかと考える。
- ・未来の子ども達にプラスの財産となるように、ランニングコストや既存施設との役割分担を踏まえながら、子ども達のためになる機能を導入すべき。
- ・高山市全体(市域)の一体感を生み出せるように、支所の情報やモノを提供できる機能を検討する。
- ・市民文化会館の大規模修理、全面改築も視野に入れた施設整備や民間既存施設との役割分担を踏まえた導入機能の検討が望ましい。
- ・外国人観光客などが駅に近いところで、支所地域を含めた高山市の情報を入手できる機能などが必要。
- ・駅西という特性を鑑み、市民の基本精神が表現されている機能、将来に向けた精神を表現する機能の導入を図り、外からいらっしゃる人にアピールすることが必要。
- ・人口減少、超高齢化の時代を考えると、ある程度市内に機能分散することも重要。

●健康増進施設に対する委員会での意見【抜粋】

- ・高齢者や運動を必要とするための人を対象としたプールには家族連れでは行きにくい。
- ・大きなランニングコストが必要となるプールは民間に委ねるべき。
- ・赤保木の市民プール、B & G海洋センタープール、奥飛騨トレーニングセンタープールなどの老朽化も含め、全市的な立場で考えるべき(駅西には必要ない)。
- ・健康長寿の立場からは、前計画(市が策定した交流センター計画)のような内容の施設を利便性の良い場所で進めて欲しい。
- ・リハビリを必要とする方も使用できるように、水温、水深、広さ及び附帯施設も充実した将来性のあるプール整備を望む。

中間報告の内容や意見などについては、第4回検討委員会までの内容について記載しています。

なお、中間報告書及び、検討委員会資料などについては、随時市役所本庁1階市民コーナーや各支所窓口で閲覧できるほか、市ホームページに掲載していますのでご覧下さい。

問合せ先 駅周辺整備課 ☎35-3180
健康推進課 ☎35-3160